

2 深胸筋症と浅胸筋変性症の病理学的検索

岩手大学農学部獣医病理学研究室

○大津奈央, 佐々木 淳, 落合謙爾, 御領政信

【目的】食鳥処理場の処理過程で発見されるブロイラーの深胸筋症は部分廃棄対象となっており, その原因には急激な翼運動による虚血が関与すると考えられている. 一方, 近年深胸筋症に類似した浅胸筋変性症が問題となりつつある. 今回, 浅胸筋変性症の発生要因解明のため, 食鳥処理場で収集した症例を病理学的に検索した.

【材料および方法】食鳥処理場にて収集された深胸筋症 4 例 (48-50 日齢) の浅胸筋および深胸筋と, 食鳥処理場で発見された浅胸筋変性症 6 例 (32 日齢) と 30 例 (48-50 日齢) の浅胸筋および深胸筋を採取し, ホルマリン固定後, 常法に従い病理組織学的に検索した.

【成績】深胸筋症の全例の深胸筋には重度の虚血性変性壊死がみられ, 病巣移行部では反応性の病変, 肉芽組織の増殖が認められた. 浅胸筋変性症罹患例では肉眼的に 32 日齢の浅胸筋は軽度退色し, 丸みがあり白色線条が散見された. 一方, 48-50 日齢の浅胸筋は扁平化しており, 硬化, 退色も顕著で, 重度の症例では筋膜の黄変と肥厚, 深部までの退色が認められた. 組織学的に 32 日齢では, 筋表層における筋線維の硝子様変性, 絮状変性, 筋貪食反応が認められ, やや深部では硝子様変性, 筋貪食反応が散見された. 間質では軽度の線維芽細胞の増殖や血管周囲における単球およびリンパ球の集簇が散見された. 48-50 日齢の筋線維は 32 日齢の変化より重度かつ広範で, 筋線維の再生性変化や線維化も顕著でリンパ球集簇などが認められたが, 化膿性反応は乏しく, 32 日齢と比較してより深部での線維化も重度であった. 重度例では筋膜でも肉芽組織の形成が認められ, さらに深胸筋の筋線維も散在性に変性していた.

【考察】浅胸筋変性症では, 筋変性, 筋貪食反応, 線維化, 再生性変化といった多様な病変からなっていたが, 炎症性反応に乏しく, 表層から深部に向かうに従い軽度となることから, 深胸筋症とは異なる機序が影響していると考えられた. また, 32 日齢の鶏でも病変が形成されていることから, 病変形成時期は比較的早く, 慢性化病変に移行していくことが推察された. 今後は詳細な血管支配領域を含め, 血管分布について検討する必要があるのではないかと考えられた.